

リール大学・白百合女子大学共同セミナー

——『仮面の告白』を読む(2)——

竹 本 俊 雄
井 上 隆 史

昨年に引き続き、『仮面の告白』についての共同セミナーを収録する。ここに掲載するのは2021年10月29日に行われたもので、討論の対象は『仮面の告白』第二章、参加学生は以下のようなものである(所属は開催時)。

リール大学(ロマンス スラブ東洋文化学部・日本学科)3年

マチルド・ヴァニエ Mathilde Vannier

ソリンス・リスカワ Soline Liskawa

白百合女子大学大学院(文学研究科博士課程前期)1年

平野優実、高際美沙

(文学研究科博士課程後期)1年 武井理紗

(言語・文学研究センター研究員) 田中あゆみ

ただし、ここに掲載するにあたって2021年から22年にかけて複数回追加でセミナーを重ね、また活字起こし、および編集時には加筆訂正を行った。その際、白百合女子大学文学部国語国文学科4年の濱崎美沙、同大学院博士課程前期1年の小野内宥乃、同後期1年の劉亦帆の協力を得た(所属は2022年度)。

なお、中国語(簡体字、繁体字)の表記については、対応する日本語の常用漢字がある場合はこれに変換し、常用漢字がない場合は、原表記に従うことを原則とした。読みに関しては、適宜ルビを振ったが、ピンインを表記する場合もある。また、句読点は日本語の表記に直した。

(例)

假面的告白→仮面的告白

陈徳文→陳徳文 孙容成→孫容成 王向远→王向遠

哈尔滨出版社→^{ハルビン}哈爾濱(HAERBIN)出版社

北京师范大学出版社→北京師範大學出版社

(竹本、井上記)

(2)

井上 前回『仮面の告白』の第一章を読みました。今日は第二章に入る前に、第一章の中国語訳についても少し見てみたいのですが、びっくりしたのは、こんなにあるんです。

高際 張牧之さんは確か八つあると言っていましたが、繁体字版を加えると九つでしょうか。ちょっと挙げると、「陳徳文 (Chen Dewen) 版」、「孫容成 (Sun Rongcheng) 版」、「佟凡 (Tong Fan) 版」、「高詹燦 (Gao Zhancan) 版 (台湾)」、「唐月梅 (Tang Yuemei) 版」、「李永熾 (Li Yongchi) 版 (台湾)」、「石榴紅文字工作坊版 (台湾)」、「劉華亭 (Liu Huating) 版」、「王向遠 (Wang Xiangyuan) 版」があります*1。

竹本 中国語訳はいつ頃から出ているのでしょうか。

井上 90年代以降のようですね。

竹本 私の知る限りですと、80年代の中国の文学は、フェミニズムの影響が大きく、そのためか、セクシュアルな面だけ強調されて取り入れられたんですね。だから誤解とは言えないかもしれませんが、凄く狭い解釈になってるんですよ。それとの関係は……

井上 あるかもしれませんね。たとえば、1993年の北京師範大学出版社の訳本には副題のようなものがついていますね。

高際 「変態心理小説」*2と書いてありますね。

竹本 roman psychologique anormal?

井上 こういう副題が付けられているとすれば、それはどのようなコンセプトで翻訳されたことを意味するのか。今では、このような訳され方、読まれ方はしなくなったのか、こういうことは、これからの研究課題になりますね。また、『仮面の告白』の冒頭、ド

*1 『仮面的告白』 陳徳文訳、遼寧人民出版社、2021年2月

『仮面的告白』 陳徳文訳、天津人民出版社、2021年1月

『仮面的告白』 陳徳文訳、人民文学出版社、2020年6月

『仮面的告白』 孫容成・戴煥訳、北京十月文芸出版社、2020年4月

『仮面自白』 佟凡訳、哈爾濱出版社、2020年1月

『仮面的告白』 高詹燦訳、木馬文化、2018年6月

『仮面自白』 唐月梅訳、九州出版社、2015年1月

『仮面自白』 唐月梅訳、上海訳文出版社、2014年5月

『仮面自白』 唐月梅訳、上海訳文出版社、2012年11月

『仮面自白』 唐月梅訳、上海訳文出版社、2009年1月

『仮面自白』 唐月梅訳、北京出版社、2003年4月

『仮面的告白』 唐月梅訳、木馬文化、2002年1月

『仮面的告白』 李永熾訳、花田文化、1995年7月

『仮面的告白』 石榴紅文字工作坊訳、花田文化、1995年

『仮面的告白』 劉華亭訳、星光、1994年

『仮面的告白』 王向遠訳、北京師範大学出版社、1993年

『仮面的告白』 石榴紅文字工作坊訳、久大文化、1991年4月

ミニク・パルメさんが、Longtemps, j'ai soutenu que j'avais tout vu de la scène de ma naissance. と訳した「永いあいだ」というところですが、この訳文に「tout」が入っていることについて、やはりその方がリズムとして良いんじゃないかということ、前回、ソリンヌさんとマチルドさんに色々教えていただきました。私は、その「tout」というのは、生まれた時以降の語り手の生涯のすべてが予知されているというふうに解釈できないかと思って、実はパルメさんに直接聞いたんですが、それはちょっと無理でしょうっていうふうに、否定をされました(笑)。

竹本 この言葉はリズムを整えるために入れたんじゃないかな。Mathilde, Soline, si on enlève « tout » de « j'avais tout vu de la scène de ma naissance », est-ce que le sens passe? Est-ce que ça change quelque chose? 今、「tout」を抜いたら意味が変わるかどうか聞いてみました。

Mathilde Oui.

Soline Il faut retirer le « de ».

Mathilde C'est moins profond. C'est moins naturel.

竹本 Quand vous dites « profond », c'est au niveau du sens ?

Soline Oui, quand on dit « j'ai vu la scène de ma naissance », c'est assez superficiel. Alors qu'avec « tout », on comprend que c'est dans les moindres détails.

竹本 意味的に言うと、「tout」があるので細部まで見たことになる。それからやはり、「tout」が入っているほうがリズムとして自然だそうです。

井上 有難うございます。中国語訳、三種類を例として出しますが、高際さん、ちょっと読んでみていただけますか。順に唐月梅、陳徳文、そして孫容成と戴煥の共訳になります。「永いあいだ」に相当する箇所を下線を引きました。

高際 長期以来、我一直堅持説、自己曾經目睹自己出世時的光景。

很長一段時間，我總是倡言我見過自己出生的光景。

小時候，有很長一段時間，我堅持説記得自己出生時的情景。

井上 ここには、全てを見たという意味の言葉はないですね。

高際 ないと思います。

井上 やはり「tout」を挿入したのはパルメさんの独創なんですね。それはとても効果的だと思います。中国語訳でも、そういう独創的な訳し方はあるのでしょうか。三番目の

* 2 「変態心理小説」という副題について、北京師範大学出版社の訳本の表紙に、以下のような説明がある。「ここには病的な心理と病的な人格が描写されている。しかし、病的な心理と人格を認識することは治療の基礎であり、病氣予防のために症状を描出することと同じである。それらの作品における変態心理についての分析と描写は、二十世紀文学がより深く人の内面を探索することを表している」。この文章から見れば、『仮面の告白』における描写を、当時の出版社と訳者が病的なものとして理解していることが推測できる。(劉)

(4)

訳の「^{ジャウシーホウ}小时候」は、「子供のころ」という意味ですか。これは原文にはないですね。

高際 「小时候」というのは「小さい時」という意味ですね。

井上 三つの下線部の違いは？

高際 一つめは、純粋に長い間だと思うんですね。次は^{ヘン}很という「とても」を意味する語が付いているので、とても長い間。三番目の訳の「有^{ヨウ}」というのは、「ある」という意味なので、小さい時にこういう経験があったという感じですかね。

井上 こういう比較は、これから本格的に考えるべきテーマですね。他に、マチルデさん、ソリンヌさん、ご意見などあれば。

Mathilde Par rapport au « tout », il semblait que le narrateur est omniscient. Il a l'air un peu extérieur à lui-même tels un fantôme ou une âme errante.

Soline On se demandait ce qu'il entendait par le « tout ». Ce mot comprend-il les êtres et les choses que le narrateur n'a pas vus ? Ou bien, s'agit-il d'un point de vue englobant ?

竹本 « tout »があることによって、話者がバルザック的な、つまり全てを知っている話者、「全能の話者」になる。その話者が、主人公からちょっと離れたところから、全体を見ていると。そういうふうなイメージで読めると言っていますね。

井上 なるほど。前回面白いことを逆に日本の参加者が言っていたのは、語り手のほうから「全て」と言われてしまうことによって、かえって読者の自由が束縛されるのではないか、ということ。これは、僕にはない視点だった。

竹本 そうですね。私もいわゆる「全能の話者」、フランス語でいう narrateur omniscient というのは、ちょっと考えませんでした。

井上 それでは第二章に行きましょう。読後の印象のようなものがあれば、まずそれを。また今日は、「色」というテーマについてお話しできれば、などとも思っています。

竹本 Quelles sont vos premières impressions sur le chapitre deux ?

Mathilde Je l'ai relu la semaine dernière, en même temps que les passages dans le livre en japonais. Lorsque vous nous aviez dit qu'on allait parler de la couleur, je n'avais pas eu l'impression qu'elle était significative, mais en le relisant, c'est ce que j'ai le plus remarqué.

Soline On a un grand spectre des couleurs dans tout le chapitre deux.

竹本 凄く沢山の色が使われているというのが非常に印象に残った、再読した時にそう感じたとも言っていますね。私もそうです。

竹本 À votre avis, comment Mishima use-t-il des couleurs, j'ai l'impression que le blanc a un importance indéniable. Par exemple, la neige révèle au mieux la couleur du sang par effet de contraste.

Mathilde D'abord, j'ai eu l'impression que les couleurs principales étaient le blanc et le noir. Mais ensuite, j'ai observé aussi que trois autres couleurs ressortent : rouge, vert, bleu. Mishima associe peu à peu les couleurs les unes aux autres.

竹本 一番よく使われている色は「白」と「黒」で、その二つの対象がまず作られると。そのあとに出てくるのが、「赤」、「緑」、「青」、だからそういう意味でその五色の組み合わせで話が進んでいく。そういうふうなことを言っていますね。

井上 それは、色々小説を読んだり、特に日本の小説を読んだ経験から言った時に、かなり珍しい読書経験になりますか？それとも比較的よくあるような読書経験でしょうか。

Mathilde D'habitude, je lis surtout pour le plaisir de la lecture, je ne m'attarde donc pas trop sur l'analyse. Mais cette fois, selon vos consignes, j'ai lu le chapitre deux en prêtant attention à l'usage des couleurs.

竹本 A votre avis, y'a-t-il quelque chose de particulier quant à l'usage des couleurs au chapitre deux ?

Mathilde Je trouve que ça donne une ambiance assez particulière, il y a des thèmes du livre qui ressortent beaucoup. Par exemple, l'obsession de la mort, ou plutôt la mort associée à la beauté.

竹本 情熱とか死とか美ですね。こういった小説のテーマが、色とともに非常に強調されることになるのではないのでしょうか？

Soline Pour moi, c'est surtout le blanc qui est significatif au début du chapitre deux. 白いという言葉には多くの表現や意味がある……

竹本 象徴があるということ？

Soline Et la trinité biblique.

竹本 Intéressant. 三位一体ですね。

Soline Mishima transpose sur le roman la blancheur du tableau de Guido, c'est-à-dire *le martyr de saint Sébastien*. Or, dans la *Bible*, la blancheur est reliée à la lumière.

竹本 白という色は非常に聖書を連想させると。その上、聖セバスチャンが出てくるので、思い出したって言ってますね、ソリンヌは。

井上 なるほど。白から聖書は、自然に連想されるものなののでしょうか？

竹本 Est-ce que vous associez la blancheur à la *Bible* naturellement ?

Mathilde Pas naturellement, le blanc me fait penser avant tout à la pureté.

竹本 白だと清浄のイメージ。

井上 純粹というような……

竹本 はい。

井上 それは、日本でもフランスでも同じでしょうか。

平野 私が読んだ時は、色がいっぱい使われているとは逆に感じていなくて、それよりも肉体的なものが多いなって。でも、後から色に注目すると白が目立っている感じがしました。

田中 最初読んだ時は、やはり性の目覚めや、近江に対する恋愛感情に目がいってしまったのですが、確かに色に注目していくと、色彩が物凄く巧みに、パズルのように組み合わせられて『仮面の告白』という世界が構築されているところに綿密さを感じました。

(6)

武井 雪の場面は真っ白という印象ですが、他にも、「血潮」や「白い血しぶき」、「黒い草叢」など、色を通しての表現がなされています。また、二章は冒頭から「悪習」が出てきますが、そこから雪の場面に移るところで、「性」と「白」という対象的な印象を持ちました。しかし、「性」と「白」は実はイコールであり、繋がっていると受け取ることもできます。

井上 真逆なものが実は結びつく、そういう構造を色で表しているということが言えるかもしれませんね。

武井 二章の最後のほうに、「私」が少年を食べるという空想描写があります。聖セバスチャンと近江はイコールの関係にあります。この少年を近江と重ねると、皿の上で縛られている少年は聖セバスチャンの殉教図に重なります。さらに、聖セバスチャンを近江に見立てて食すということは、聖体拝領にも繋がるのではないのでしょうか。それは「私」の性的空想であり、聖セバスチャン＝近江と一体化したいということだと思います。聖体拝領とは、魂の継承や一体化を意味するので、そのように考えると、性やエロティシズムと、聖なるものや宗教的なものはイコールの関係にあって、決して矛盾ではなく、自然な場面転換の流れであると捉えられ、性的なことと聖なるものが繋がっているということ、色彩表現を通して描いていることを読み取ることができます。

Soline J'aimerais rajouter quelque chose par rapport à la couleur blanche et à la religion catholique... 白い色は喪服の色です。1495年までは王様の白い喪服は復活を意味しました。Avant 1495 en Europe, on portait des vêtements blancs de deuil. Cette couleur était liée à la résurrection de Jésus. Par tradition, on s'habillait en blanc pour faire revenir le mort. C'était surtout le cas lorsqu'un roi décède.

井上 白い喪服は復活を意味する？

竹本 そうですね、復活を意味する。1495年まではヨーロッパの王の喪の衣裳というのは「白」だったと。それは私も知りませんでした。Je ne savais pas, merci.

Soline La résurrection est liée à Jésus qui revient à la vie. Indirectement, ça me fait penser aussi au martyr de saint Sébastien.

竹本 第一にその復活というのはキリストのことだと。それから間接的には聖セバスチャンのことではないかというのが、ソリンヌの意見ですね。

Soline Saint Sébastien est souvent évoqué par sa blancheur, par son étoffe blanche. Par-là, je me demande si le blanc est relié tantôt à la mort, tantôt à la résurrection.

竹本 「白」というのは両義的な意味を持っている。死に結びついているけれど同時に復活、つまり生の回帰ということですか。その二つに結びついているというのがソリンヌの意見です。

井上 日本においても、「白」という色には純粹とか清めるとか、そういう意味が確かにあるので、フランスではどのように受け止められているのかと伺いたっていました。今のお話を聞いていると、我々が思っていた以上で、非常に面白いです。また、日本語で読んでゆくと、その色のイメージは、波のように動いていきますね。たとえば、

「私の学校では式日に白手袋をはめて登校する」とあります。ここで「白」が一回出てきて、ところが「貝の鉤が手首に沈鬱に」とあるので、これはむしろダークなイメージですが、それが「光り」とあるので、明るいイメージに転化します。ところが、読み進めると、「講堂の仄暗さ」と言われて、またダークなイメージになって、ついで「塩瀬の菓子折」が出てきますが、これは白いお饅頭ですね。さらに続いて、「一日が中途から明るい音を立てて」というのは明るいイメージですが、それが「音を立てて挫折する」と繋がり、これはネガティブな暗いイメージ、最後は「快晴の式日」なので、ここは明るいイメージです。このように、プラスとマイナスの色のイメージが波のように変化する。日本語で読んでゆくと、漢字と平仮名が混ざり合って、視覚的にもたゆたうようです。こういうことは、フランス語や中国語でも言えるものなのでしょうか？

竹本 Est-ce que vous pouvez lire le texte en français ?

Soline Eh bien, ensuite, il y eut les gants blancs dont j'allais parler. A mon école, la coutume voulait qu'on portât des gants blancs les jours de fête. Le seul fait d'enfiler une paire de gants blancs, avec des boutons de nacre luisant mélancoliquement aux poignets et trois sages rangées de piqûres sur le dos, suffisait pour évoquer les symboles de tous les jours de fête —la sombre salle de réunion où avaient lieu les cérémonies, la boîte de bonbons de Shioze reçue au départ, le ciel sans nuages sous lequel ces sortes de journées semblent toujours rendre des sons éclatants au milieu de leur carrière, puis s'effondrer.

井上 有難う。これは最初のほうのルネ・ヴィロトーの訳ですね。次にパルメさんの訳もお願いします。

Mathilde Mais revenons aux gants blancs. Dans mon école il était d'usage, les jours de cérémonie, de porter des gants de cette couleur. Leurs boutons de nacre jetaient une lueur de mélancolie sur nos poignets, trois rangs de piqûres méditatifs ornaient le dessus, et le simple fait de les enfiler éveillait en nous les impressions liées à ces occasions solennelles : la pénombre de la salle de conférences lors de la cérémonie, la boîte de confiseries de chez Shioze reçue au retour, et ces journées radieuses qui, à mi-course, semblent sombrer avec des sons clairs.

竹本 Est-ce que vous sentez l'alternance de rythme et l'opposition entre tout ce qui est lumineux et tout ce qui est sombre?

Mathilde Je l'avais noté partiellement, je l'avais relevé justement. J'avais trouvé ça intéressant.

竹本 やっぱりリズムがある、井上先生がおっしゃったような明暗の対立から出てくるリズムというのは感じると言っていますね。

Soline Oui, je suis d'accord avec Mathilde, d'un côté on a la blancheur des gants, et de l'autre côté la salle sombre, on a vraiment un contraste entre les deux couleurs.

竹本 片方に白い手袋があって、その背景が暗い教室なので、明暗のコントラストがは

(8)

つきり出ている。それは翻訳を読んでも感じると言っていますね。

井上 この二つの翻訳の違いについては、どうでしょうか？

竹本 Comment comparez-vous ces deux traductions ? Y'a-t-il des différences de style ?

Mathilde Ça n'a rien à voir du tout. Dans la première, le contexte est plus clair, me paraît-il. De plus, j'ai l'impression que l'ambiance est plus conviviale que dans la seconde.

竹本 全然違うと言っていますね。最初の翻訳では学校に行って一緒にいることの楽しさとか、人といるときの一体感というのが出ているんですけど、二番目のほうはそういうのが全くないと。

Soline Par rapport aux deux traductions, je relève un problème de traduction. Le changement des mots entraîne le changement du sens. Là où le premier traducteur écrit le « jours de fête », le deuxième met « les occasions solennelles ». Si bien que, dans la première traduction, on a une scène festive et joyeuse, alors que dans la seconde, on est plus dans une ambiance rituelle.

竹本 最初の翻訳では祭りとか、日本語の晴れまではいかないけれど、祝祭的な気分が出ているのに対して、パルメさんの訳だと、日本語でいう荘厳ということが変わっているので、祝祭的な雰囲気は全く出ていないということですね。祭りっていうか浮き立つような気分、そういうことかな。Y-a-t-il quelque chose de joyeux dans la première traduction, y-a-t-il une joie dans la première traduction contrairement à la seconde ?

Mathilde Pour la deuxième, ce que je note, c'est qu'on a un contraste entre les lumières radieuses du jour et l'obscurité de la salle, c'est ce qu'on ne trouve pas dans la première. On parle plutôt des sons éclatants, au lieu de la lumière dans la première.

竹本 最初の翻訳では、一番最後の行ですけど「sons éclatants」、弾けるような音と訳されているのに対して、二つ目の訳では「et ces journées radieuses」、色彩の形容詞なんですけど、南仏の太陽のぐらいの強さがある言葉なんですね。だからこの言葉と最後の「sombrier」という言葉の非常に強い対照が出ていますね。

井上 やはり、訳によって個性がありますね。日本語の原文自体、特徴的ですが。

竹本 これはまさに三島ですね。

井上 中国語の場合はどうでしょうか？ 高詹燦の訳で該当箇所を見てみましょう。

我的学校每到有仪式的日子，依照惯例要戴白手套上学。贝壳钮扣在手腕处散发阴沉的光芒，白手套的手背处缝着冥想般的三条线，只要戴上它，就令人想起举行仪式时礼堂内的昏暗，离去时领到的盐潮餐盒，以及一天都过了一半，才能发出开朗的声音。明明天气晴朗，却死气沉沉地举行仪式之日，这都是它给人的印象。

最後に「死」という言葉が出てきますが、これは原文のどこに対応するの？

高際 これは、死ぬほど憂鬱な感じ、活気がない、というような意味ですね。物の例えといえますか、慣用的な表現と言いますか、日本語のどこに対応するのかな。「挫折す

る」というところでしょうか。

井上 「死」という漢字自体にインパクトがあるので、何か深い意味があるように解釈したくなりますね。しかし、フランス語にはそういうイメージはないですね。

竹本 En français est-ce que vous sentez l'image de la mort dans ces deux traductions, ou pas du tout ?

Soline Pas du tout.

Mathilde Toi tu avais quelque chose à ajouter.

Soline Pour revenir à la première traduction et à la notion de joie, l'utilisation de « jour de fête » semble un peu improbable et mal placée. On fait l'état de la mélancolie juste avant et on ne devrait pas avoir cette impression de festivité mais plutôt de solennité. On a aucune évocation de la joie excepté « jour de fête », on a l'impression qu'il y a une incohérence...

竹本 C'est-à-dire dans la première traduction, le mot choisi dénote la « festivité », mais le deuxième efface la « festivité » au profit de la « cérémonie », c'est ça ?

Soline Cela s'accorde mieux avec le reste de la phrase : « les gants blancs nacrés » et l'évocation de la mélancolie. Je trouve étrange d'associer la mélancolie avec « les jours de fêtes ».

竹本 今、二人が言ったことを、まとめますと、最初のフランス語訳では祝祭的な気分、あるいは明るい祝日の気分が出ているのに対して、第二の翻訳では儀式になってしまう。ただ問題は、メランコリーという言葉は祭りとは一緒に使いにくいので、メランコリーという沈鬱なところですかね、それを生かすためには、パルメさんの訳のほうが収まりがいいというのか、全体的に意味的な矛盾がないというふうに言っています。

井上 なるほど。どちらの訳が好きですか？

Mathilde La deuxième.

Soline Je sais que la première est une traduction ancienne de l'anglais, donc je préfère la deuxième traduction.

井上 今、ポーランド語訳も出ましたし、色々な訳を比較して、そこから逆に日本語原文の潜在的な意味がより明確に浮かび上がればいいなと思いますね。もう一箇所いいですか。ちょっと平野さんに日本語を読んでもらいましょうか。

平野 しかし、整列場のところへ来ると、彼は呆気なく私の腕を離して自分の順番へ並んだ。それから二度と私のほうをふりむかなかった。式のあいだ、私は自分の白手袋の泥のよごれと、四人をへだてている近江の白手袋の泥のよごれとを、何度となく見比べるのだった。

井上 ここは「白」も出てきますが、「泥」も出てきますね。

平野 「白」が泥によって汚される、ということが、日本の穢れ、という考え方にリンクするのでは。それは、第一章で出てくる糞尿汲み取り人、汚穢屋にも繋がるので、自分が汚れたものに戻っていくというのか、憧れの存在にどんどん近づいていくということ

(10)

を、白手袋から読み取れるんじゃないかなと考えました。

竹本 なるほど、汚れですか、それはとても面白いですね。

井上 この「汚れ」というのは、フランス語では？

竹本 Est-ce que vous avez déjà entendu en japonais 汚れ /kegare ?

Mathilde Oui, c'est la souillure.

竹本 Exact. Y'a-t-il quelque chose qui serait comparable à la souillure au sens « rituel » du terme ? La souillure est polysémique, elle signifie tant l'interdit que le « sacré ».

Mathilde Oui, je pense, d'ailleurs ça me fait penser à un mot qu'on retrouve dans la deuxième traduction à la page 90, c'est « la pureté déchue ». On peut rapprocher ces deux termes. Le fait que le blanc revienne tout le temps, nous fait penser à la pureté et qu'il soit maculé de boue. C'est difficile.

Soline Je pense à la perte... je pense qu'il a perdu sa pureté quand il tombe amoureux d'Ômi. Il a perdu sa pureté et par extension se salit.

竹本 近江に恋したことで、純粹さをなくしてしまうと。だから、純粹さをなくすという意味で、汚れと近い、フランス語だと « souillure » っていう言葉ですけど、純粹さをなくしたところで汚れに近づくと。汚れだと二義的な意味、つまり避けなければいけないからこそ聖なるもの。そういうニュアンスもちょっとあるんじゃないかということですね。

井上 これはウェザビーの英訳だと、Time and time again I looked from the stains on my own white gloves to those on Ômi's... とあります。しかし、「stains」というのは、ちょっと違いますね。ヴィロトーは « tâches » と、パルメさんは « maculés de boue » 訳していますか？

竹本 « tâches » って言ったら本当に料理してて油が飛んできて汚れたとか、そんな感じ？ マチルデ？ ソリンヌ？

Mathilde Oui, je trouve que les « tâches », ce n'est pas vraiment fort alors que « maculé », on a l'impression que son gant a été plongé dans la boue.

竹本 En plus « maculé », si on ajoute le privatif, ça donne « immaculé », en français? N'est-ce pas ?

Mathilde Oui.

竹本 C'est alors vraiment sacré. « maculé » だと、ほとんど宗教的なところまでいってしまう、あの汚れの意味がですね。

井上 やっぱりそれ位深いんですか。

竹本 深いです。さっきの白と聖性ということに結びつくんですが、「Immaculée Conception」という言い方があるんです。処女懐胎ですね。全く汚されていないイメージ。

井上 これは意味が深いな。

竹本 これはパルメさんは意識されてやったんでしょうね。 Les « tâches », est-ce un terme quotidien et banal ?

Mathilde Oui.

Soline C'est vrai que la souillure a une connotation religieuse forte. Dans ce contexte, l'éjaculation peut être liée à cette souillure dont on parle.

竹本 汚れというのは宗教的な意味が強くて、その汚れに射精のシーンも結びつけることができるそうです。

井上 これは中国語だとどういう感じになりますか。やはり、高倉燦の訳で見てみましょう。

高際 然而、来到集合場後、他冷冷地鬆開我的手、排向自己的隊伍裡。再也沒轉頭看我一眼。在舉行儀式的過程中、我多次來回打量自己白手套上的泥巴髒污、以及和我隔著四個人之遙的近江、他白手套上的泥巴髒污。^{*3}

井上 「髒」という字は、衣服などが汚れている、という意味でしょうかね。ソリンヌさんからコメントが来てますね。

Soline C'est Mathilde qui a écrit ça.

Mathilde Oui, oui, parce que justement je trouvais qu'à la page suivante, ça fait bien écho aux gants maculés de boue, parce que le mot « déchu » a aussi une connotation religieuse, comme les « anges déchus » et la pureté des gants blancs.

竹本 今マチルドが言ったのは、その汚れた手袋っていうのが退廃した純潔という言葉に対応していると。フランス語の場合のこの「déchu」っていう形容詞なんですけど、これかなり宗教的な意味があるんです。私の同僚が太宰治の『人間失格』はL'humanité déçueと訳すのが一番いいんじゃないかと言っています。取り返しがつかないその失策というのか。純潔を失って戻ってこない。それ位強い意味になりますね。

井上 なるほど。そういえば、太宰治の「太宰」というのは「墮罪」でもあるんですよ。もうそろそろ、時間ですね。最後に、全体的な感想をお聞きしてみようかなと思います。

平野 日本では、みんなが信じている宗教というものがないので、色に関するテーマもただそれだけの話になってしまうんですけど、フランスではまったく違うということがわかって楽しかったです。

田中 そうですね、雪や「白」という話題が出た時に、ジャン・コクトーの『恐るべき子供たち』の冒頭の雪合戦の場面を思い起こしました。

井上 コクトーとの関係については、次回、マチルデさん、ソリンヌさんのお考えを伺いたいと思っています。

武井 私は太宰治を専門に研究しているので、『人間失格』の「失格」という語がフランス語だと「déchu」が最適だということを知り、勉強になりました。人間は更生という選択肢、あるいは可能性もある中で、もはや人間の資格を失い、元に戻る事が出来

* 3 「泥巴髒污」の「泥巴」は一つの単語で「泥」の意味である。(劉)

(12)

ないという烙印を押したタイトルは、強烈に迫ってくるものがあります。また、「白」という色だけを通して、日本とフランスで受け取り方の違いやイメージ、解釈が異なってくる。そうだとすれば、「白」に限らず、どんな言葉一つをとっても、各国ごとの文化や宗教などによって異なった解釈が出てきたりするのだなと思いました。

高際 フランス語と中国語を比べただけでも、訳によって本当に色々個性があって、面白かったです。

Mathilde Je trouve très pertinent de travailler sur le blanc, parce qu'en lisant le chapitre, j'ai relevé pas mal d'éléments. Par exemple, lorsqu'il est associé au rouge, la passion ressort, tandis que, lorsque le rouge est relié au noir, on éprouve un présentiment de danger. De plus, il y a pas mal de moments où le blanc ressort particulièrement, j'avais relevé par exemple à la page 91, et en japonais à la page 68, l'évocation du vilain petit canard et du cygne. J'ai été étonnée par cette juxtaposition. Alors que le premier est médiocre ; le second, majestueux.

竹本 まず、白と赤が結びつけられると、その結びつきによって情熱というテーマが出てくる。あと他のシーンでは、白が白い白鳥とあとは汚い鴨がいるのかな？ そこだと白は偉大さと白が結びついて、その横になる鳥は結果的にあまり価値のないものになってしまうと。そういう結びつき、色の結合が印象的だったと言っていますね。

Soline Par rapport au blanc, je disais qu'on a énormément de symboliques, pas forcément que religieuses. Tout simplement, on parlait de la souillure tout à l'heure, mais le blanc, c'est aussi la pureté, le calme, la virginité, la paix, le bien... Il y a énormément de sens. En français, on a des expressions avec le qualificatif du blanc. Par exemple, « la page blanche », « la nuit blanche », « La voix blanche », « avoir un blanc »... De fait, on a énormément de sens différents du mot blanc.

竹本 フランスだと「白」という言葉は宗教的な意味だけではなくて、文化的なイメージとして、「静けさ」とか「純潔」、「平和」などをあらわす。フランス語自体が、「白」という言葉を表現の中に入れてるのがあって、例えば「徹夜する」っていうのは、「passer une nuit blanche」、つまり「白夜」を過ごすっていう言い方になります。「La voix blanche」、ça veut dire quoi ?

Soline Une voix blanche c'est quelqu'un qui n'a pas de voix.

竹本 声がなくなった時は、もう白い声ということ？

Mathilde Une voix blanche est une voix sans timbre particulier.

竹本 特徴のない声を、白い声と言う。言語表現として白がよく使われていますね。

井上 なるほど。『仮面の告白』を書いた時点では、三島由紀夫はフランス語はわからないですよ。しかし、潜在的に何か感じるころがあったのではないか。そこをパルメさんの翻訳が上手に引き出したというようにも思いました。今日は、パルメさんの訳の魅力が一段とよく分かったようで、勉強になりました。

竹本 今日は二回目で、前回よりも密度が上がりましたね。

井上 引き続き、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(リール大学准教授〔竹本〕／本学教授〔井上〕)